

県議会(令和3年第3回定例会)における要望等の概要

NO	基本目標	質問項目	要望
1	全般	第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略「2020年度評価報告書(案)」について	新型コロナウイルス感染症は地域経済や住民生活に大きな影響を及ぼしている一方で、地方への移住に対する関心の高まりとともに、テレワークを機にひとの流れに変化の兆しがみられ、県民の意識・行動が変化してきている。コロナ禍においても、総合戦略に位置付けた施策について、しっかりと取り組んでいただくよう要望する。
2	全般	第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略「2020年度評価報告書(案)」について	県では計画の策定やビジョンの改訂に当たり、全庁的に定量的な手法が導入されているところであり、その取り組みは評価できる。今後とも様々な指針において、定量的な目標設定・結果の分析をお願いする。また、事業評価に当たっては、県民にとってその事業の社会的インパクトがより分かり易く伝わるような工夫も求められる。特に総合戦略においては、新型コロナウイルス感染症の影響で事業評価の連続性が途絶えることから、抜本的な見直しをするチャンスでもあり、より県民サービスの向上につながるよう事業改善のPDCAサイクルが一層機能するような評価制度の在り方についての検討を要望する。
3	全般	第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略「2020年度評価報告書(案)」について	緊急事態宣言が全面的に解除され、「新しい生活様式」が求められていく新しい次元に入ると思う。しっかりと財源の確保を求めて行っていただきたい。また、重ねて新しい生活様式の普及について、継続して取り組むように要望する。
4	全般	地方創生の取組について	新型コロナウイルス感染症は地域経済・社会に大きな打撃を与えた一方、これを機にテレワークの普及など、地方へのひと・しごとの流れにつながる新たな働き方の萌芽もみられるようになったかと思う。地域の活性化を進めるためには、しっかりと市町村との連携をしながら、県はこの機会を逃すことなく、地方創生の取組みについて、市町村とともにしっかりと取組を進めていただくよう要望する。
5	基本目標2	三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進について	地域に根差した起業家の創出は重要である。今回の講座の参加費3万円という設定をどう判断するかは受講生だが、現在オンラインのセミナーは大変多く、また、様々な情報も得られやすい時代となっている。起業・開業に関する相談は商工会議所、各市町村にもあるが、本件のプログラムのように様々な事例からのヒントは大きいと思われる。三浦半島には空き家や空き店舗の多い地域もあり、一般質問でも取り上げたが、自然豊かな地域の魅力や湘南国際村など、民間の活力や地域の財産を生かし、様々なアイデアで三浦半島の活性化に取り組んでいただくよう要望する。
6	基本目標2	かながわシープロジェクトの推進	海辺の生活の魅力を発信し、観光客であったり、移住者を集めていただきたい。
7	基本目標2	コロナ禍における県立文化施設の運営について	集まるということで難しいところがあると思うが、県立文化施設で提供している演目はあまり大声を出したりすることはないので、感染症対策に気を配りながらも、こういった施設も徐々に再開していただき、文化芸術に直に触れる機会を設けていただくような方向にもっていただこう要望する。
8	基本目標3	若い世代の結婚・出産・子育てについて	(人口置換水準の)2.07と(県の希望出生率の目標値)1.42の大きな数字の乖離というのは、なかなか理解しずらく、目標値の設定の仕方として疑問が残る。この1.42を仮置きすることは理解するとしても、この希望出生率を使うのであれば、希望出生率を上げて行く取組を具体的にやっていく必要がある。この数字に何が置いてあるかということよりも、そちら(希望出生率を上げるための具体的な取組み)の方が大事かと思うので、それも十分に踏まえて取り組んでいただきたい。
9	基本目標3	社会的な活動等に困難を抱える若者への支援等について	ひきこもり状態にある方がいきなりフル回転で仕事や学校に通うという一足飛びに行くことは非常にハードルが高く、本人にとっては恐怖といったような感情もあると思う。低いハードルから少しずつ家を出て社会になじんでいけるような施策を展開していただくよう要望する。
10	基本目標3	子どもの貧困対策について	子どもの居場所づくりへの支援など、子どもの貧困対策の取組みを着実に推進していただきたい。
11	基本目標3	女性の活躍支援と男女共同参画の推進について	今後もアンコンシャス・バイアス(無意識への思い込み)への気づきも含めて、様々な施策を講じながら、女性活躍の応援について、県としても進めていただきたい。

NO	基本目標	質問項目	要望
12	基本目標4	高齢になっても活躍できる社会づくり	誰もが年齢と共に身体の機能は衰えてくる。イギリスでは初期認知症患者にタブレット端末を渡し、操作を覚えてもらい、家族や友人と繋がり、さらには外部へ発信をし、社会参加へと繋げている。オランダでは認知症高齢者が働く農場があり、鎌倉では「活動」と「参加」の視点を大切に地域貢献活動を通じて役割を持って過ごすことで、認知症の予防や進行の防止にもつなげている。国内外の事例も参考に医療と介護の連携と共に、いつまでも自分らしく過ごせる仕組みと環境づくりをしっかりと築いていただくよう要望する。
13	基本目標4	コミュニティ・スクールの導入・運営について	コミュニティ・スクールの制度が、これまでの学校評議員制度とただの看板の付け替えで終わってはならない。コミュニティ・スクールへ移行することで学校も地域も変わったと県民に理解していただくよう、分かりやすい取組みを行い、広報していただきたいと要望する。
14	基本目標4	SDGsの推進について	「SDGsに関する認知度向上」はもちろんだが、今後は自分事化というところでさらに落とし込みをしていくことをメインに行っていただくよう要望する。
15	基本目標4	交流と連携を支える交通ネットワークの充実	ホームドアの設置については、利用者の安全確保にとって非常に大切なものと思う。しっかりと積極的に取り組んでいただくよう要望する。